

1 研究主題、研究内容・方法等について

(1) 研究主題

主体的・協働的に学び、持続可能な社会をデザインする子供の育成
～キャリア教育の視点を基盤とした、教科と探究のカリキュラム・マネジメントを通して～

(2) 主題設定の理由

変化が激しく先行きが不透明な時代において、児童が自らの人生を切り拓き、よりよい社会の形成に主体的に関わっていくために必要な資質・能力を育成することが求められている。

また、現代社会においては、環境問題や地域社会の課題など、持続可能な社会の実現に向けた多様で複雑な課題が存在している。これらの課題に向き合うためには、児童が自ら課題を見だし、他者と対話しながら考えを深め、よりよい解決を目指していく「主体的・協働的な学び」が不可欠である。

さらに、児童一人一人が自分のよさや可能性に気づき、将来の生き方について考えを深めていくためには、日々の学習と自己の生き方を結び付ける「キャリア教育」の充実が重要である。学習を通して社会とのつながりを実感し、自らの役割や価値を見だししていくことが、主体的な学びの動機付けにもつながると考える。

加えて、これらの学びを効果的に実現するためには、教科等横断的な視点から教育活動を見直し、学校全体で意図的・計画的に教育課程を編成・実施・評価・改善していく「カリキュラム・マネジメント」の充実が必要である。各教科や領域の学びを関連付けることで、児童の学びはより深く、実社会と結び付いたものとなる。

このような状況を踏まえ、昨年度本校は、「国語科・算数科等で身に付けた資質・能力を、生活科・総合的な学習の時間で活用する」ことに主眼を置き、研究を進めた。具体的には、教科で培った分類・比較・データ分析・構成的表現といった「知の技能」を、探究の場において思考の「道具」として機能させるカリキュラム・マネジメントに取り組んだ。

また、海外・国内の研究者や地域人材等、多様な他者との関わりの場を設定することにより、児童自身が社会や世界とのつながりを感じ、主体的に課題解決に取り組む児童の育成に努めた。

これらの取組を通して、児童の学びの質的向上及び課題解決に主体的に取り組む児童の姿を引き出す等、一定の成果を挙げることができた。

一方で、次の2つの課題が明確になった。

1. 一次情報を起点とした思考の深化

効率的な二次情報に頼るだけでなく、教科で培った「知の技法」を駆使し、直接体験（一次情報）から深い意味や問いを見出す力を育成することが必要である。

2. 「知の技法」の自覚化と社会参画への接続

教科の力を課題解決の道具として自覚的に活用させる。また、キャリア教育の視点から学びを社会と結び付け、自己肯定感や社会参画意識の向上を図ることが必要である。

以上のことから、本年度は次の２点に取り組むこととする。

①「知の技法」による探究の実施

教科で培った「知の技法」を、直接体験（一次情報）を分析するための道具として自覚的に活用させる。単なる体験に終わらず、「知の技法」で情報を分析・構造化することで、自らの問いを深めていく「探究の質的転換」を図る。

②キャリア教育の視点を生かした協働と評価

多様な他者との協働をさらに進め、他者と新たな価値を創る過程をキャリア教育の視点で振り返る。自分の力が「社会にいかに関与するか」をメタ認知させることで、自己肯定感を高め、持続可能な社会をデザインしようとする参画意識を育成する。

これらに取り組むことが、主題で掲げる児童の育成につながると考え、本主題及び副題を設定した。

（３）研究仮説

国語科・算数科の資質・能力を一次情報の分析に「道具」として活用し、その有用性をキャリア教育の視点で振り返る場を設定すれば、児童は地域と世界のつながりを多角的に捉え、自律的に未来をデザインする「持続可能な社会の担い手」へと成長していくであろう。

（４）研究内容

①「知の技法」による一次情報の読解と単元開発

国語科や算数科の資質・能力を、直接体験（一次情報）を分析する「道具」として自覚的に活用させる。ICTを効果的に用いて情報を構造化・可視化し、社会の事象から深い意味や問いを見出すプロセスを構築する。

② キャリア教育の視点による学びのメタ認知と評価

探究の成果をキャリア教育の視点で振り返り、身に付けた「知の技法」の有用性を実感させる場面を設定する。自らの学びが社会参画に繋がることをメタ認知させ、持続可能な社会の創り手としての自己肯定感を醸成する。

（５） 検証の指標

検証の視点	方法	検証の指標	達成目標
国語科・算数科で身に付けた資質・能力を、生活科・総合的な学習の時間で課題解決に活用するカリキュラム・マネジメントを行った生活科・総合的な学習の時間の単元開発（ICT活用を含む）ができたか。	単元開発	作成した単元	100%
児童が、国語科・算数科で身に付けた資質・能力を、生活科・総合的な学習の時間の課題解決で活用しているか。	児童の学習成果物	既習事項を課題解決に活用している児童の割合	90%
キャリア教育の視点による自己変容の認識	児童アンケート	「国語や算数で学んだ力が、課題解決や社会（地域）のために役立った」と実感し、自身の成長や参画意識を肯定的に表現している児童の割合	90%

2 校内研修計画

前年度の研究の成果と課題の分析及び、児童の実態把握	4月前半	・研究推進計画案作成 ・研究の年間計画案の立案 ・研究方法の確認
国語科・算数科の指導内容の確認とカリキュラム・マネジメント	4月後半	・国語科、算数科の指導内容の確認 ・カリキュラム・マネジメント
国語科・算数科の授業交流	5月～7月	・国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」、算数科の「データの活用」領域の授業交流
カリキュラム・マネジメントを取り入れた生活科・総合的な学習の時間の単元開発（ICT活用を含む）	8月	・内容の系統性、及び協働的な学びの充実を視点として、生活科・総合的な学習の時間の単元の内容を整理 ・学習指導案の作成（単元の開発）
校内研究授業	9月～12月	・学習指導案の検討（事前研修） ・授業提案（生活科・総合的な学習の時間） ・授業後協議会（事後研修）
本年度の研究のまとめ	1月～3月	・研究の成果と課題 ・研究のまとめ ・児童の成果物等の交流

研究公開の予定はない。

学校教育目標

強く 正しく うるおいのある子供の育成
～一人一人に生きてはたらく力を育てる～



目指す子供像

『吉川を創る子供』

- | | |
|-----------|--------------------|
| ☆強い子 | 自分で決めてめげずにチャレンジする子 |
| ☆正しい子 | よりよいことに気づき考える子 |
| ☆うるおいのある子 | 互いのよさや違いを認め共にあゆむ子 |



主体的・協働的に学び、
持続可能な社会をデザインする子供の育成

～キャリア教育の視点を基盤とした、教科と探究のカリキュラム・マネジメントを通して～

